



☆ 第7章 各務原人参のこれから

ブランド力の向上を目指して

「JAぎふ各務原にんじん選果場」の稼働により、農家に生まれた余力と時間を人参産地の活性化につなげるため、市・県・ぎふ農業協同組合が協力して、農家に経営規模の拡大を働きかけています。また、各務原人参の最大の特徴である、色鮮やかで、甘くて、おいしい人参を安定して出荷するために、ブランド力の、より一層の向上に積極的に取り組んでいます。

1) 作付の改良

畑土の成分分析を行い、推肥や緑肥を与えて深く耕すことにより、従来は一作休んでいたところを、連続して人参の作付けを可能にする作付けローテーションの見直しをしています。

2) 規模拡大

作付面積の拡大推進を図り、不作付けとなっている畑の活用を推進するため、地区一帯の農地の現況調査を行い、しばらく作付されていない畑について「農地中間管理事業」などを活用して、経営規模の拡大を希望している農家とのマッチングを行い、農地の集積を推進しています。

3) 安定した出荷

他の産地と競合しない時期に出荷するため、計画的な播種（種まき）を行い、栽培方法を講習会などの機会にきめ細かく農家に説明して品質の向上と均一化を図っています。

4) 有効利用

形状が整っておらず出荷できない人参について、安くお分けしたり、ペースト状に加工することにより調理しやすくするなど、年間を通して提供できるよう研究しています。

また、6次産業化による、有効利用と商品開発を推進しています。



☆ 第8章 啓発事業の推進

産学官連携協定

平成29年4月、各務原人参の地産地消の推進と発展を目指して、ぎふ農業協同組合・各務原商工会議所・東海学院大学・各務原市が「産学官連携協定」を締結しました。地元をはじめ、全国の皆様に「どこにも負けない各務原人参のおいしさ」を知っていただくため、それぞれの強みを生かした、様々な啓発事業を展開しています。

1) 各務原にんじんの日

11月24日（いいにんじん）は、語呂合わせで「各務原にんじんの日」として、多くの皆さんに、各務原にんじんを食べていただく日としました。地域ぐるみで、この日を中心に集中的に、各務原人参の啓発活動を展開します。

例えば、この週のうち1日は、市内すべての小中学校の給食に人参メニューを配膳したり、市内飲食店・販売店で、各務原にんじんをアレンジした料理やお菓子など商品の限定メニュー化や販売をしています。



各務原人参をアレンジしたお菓子の販売



とりたての各務原人参つめ放題

2) 商品開発

「東海学院大学 健康福祉学部 管理栄養学科」では、栄養価のあるお菓子などの商品化に向けた研究開発を進めています。ぎふ農業協同組合による人参の提供、各務原商工会議所では商品を製造する事業所の調整、各務原市では広報紙やチラシの配布などによる宣伝活動を行っています。